

コウリンカ*Tephroseria flammea* (Turcz. ex DC.) Holub
subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

岡山県：準絶滅危惧

被子植物門 双子葉類 合弁花群

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

キク科

選定理由

花期は夏であり、山菜採りを装っての採取被害は無いと思われるが、花の形も色も珍しく、乱獲の影響は否定できない。また生育地の環境は人為的干渉により持続している場合が多く、安定的な存続に不安がある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採集、管理放棄、自然遷移、草地開発

分布状況

本州に分布し、広島県が西限になっている。岡山県では新見市、真庭市などの県北部において、カヤ場や野焼きによって成立した山地草原、中国山地の稜線に近い半自然草地などに点々とある。より寒冷な本州中部地方では、高層湿原の周囲で見られる植物である。

生育情報

日当たりの良い山地の草原に生える多年草。茎は高さ50～60cmで上部にクモ毛がある。花期は7～8月。頭花は径3～4cmでやや散状につき、赤橙色の長い舌状花が反り返って咲く姿は、色とともに目に付く。

特記事項

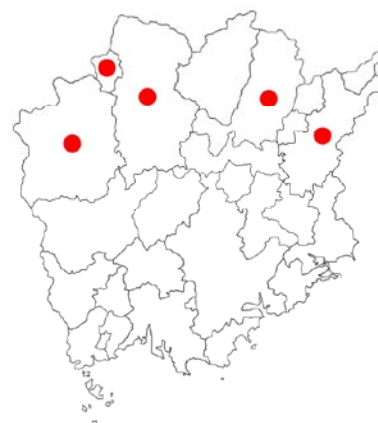
「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

文献番号 75, 130

(難波靖司)



撮影：難波靖司

**ネコノシタ (ハマグルマ)***Wedelia prostrata* (Hook. et Arn.) Hemsl.

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

被子植物門 双子葉類 合弁花群

環境省：該当なし

キク科

選定理由

岡山県では、2004年の台風16号によって玉野市の群落が絶滅し、その後回復が見られないため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

海岸の砂地に生育し、関東、北陸以西から琉球、小笠原に分布する。岡山県下では、過去に瀬戸内市で標本が採集された記録が残されている。近年では玉野市の1カ所のみで生育が確認されていた。

生育情報

黄色い頭花をつける多年草で茎は地面を這う。茎の節から根を下ろして生える。葉は対生し、長だ円形で厚く、両面とも非常にざらつき、ネコの舌のようであることから名前がついた。そう果は長さ4mm、幅2.5～3mm、3～4稜形、先には剛毛が密にある。花期は8～11月。近縁種のクマノギクやオオハマグルマは葉がこれほど厚くなく、岡山県下では分布が知られていない。ハマグルマの別名は混乱を招く可能性があるため、使用しない方がよい。

特記事項

海水浴場として利用されているため、除草される危険性がある。

文献番号 9, 61, 121

(榎本敬)



撮影：榎本敬(左)・難波靖司(右)

